



# ゆに わーるど

2012/II

Vol.41

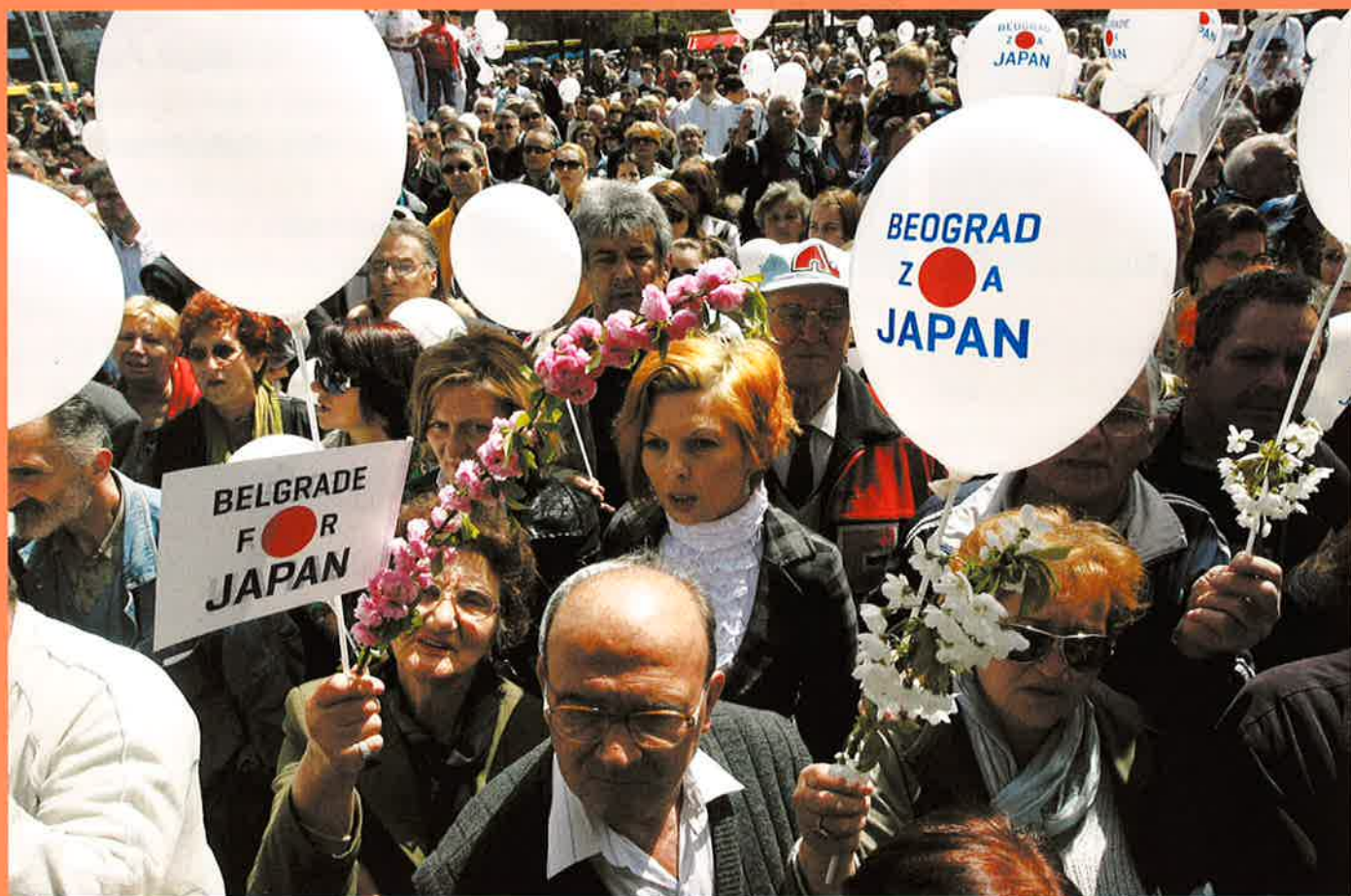
UNIDO ITPO Tokyo

トルコ産業界との個別商談会

「スマートグリッド展2012」に参加

「リオ+20」ジャパンパビリオンに出展

世界の国から **セルビア共和国**



セルビアでの東日本大震災追悼行事

## UNIDO 東京事務所代表着任のご挨拶

本年6月に、国際連合工業開発機関 (UNIDO) 東京投資・技術移転促進事務所代表に就任致しました古谷毅です。

UNIDO は、地理的にはアフリカ諸国を、産業分野としてはアグリ・インダストリーを重点課題に、そして、環境・エネルギー分野の投資・技術移転及び中小企業振興を横断的な重点課題として、開発途

上国や市場経済移行国の持続的な経済発展を支援しています。日本は、これらの重点課題に関して多くの技術やノウハウを有しており、その貢献に対して大きな期待が寄せられています。当事務所として、このような期待に積極的に応えることが、途上国の持続的発展を支援し、ひいては日本の産業発展にも資することに

なるものと考えています。

皆様のご理解とご支援を得て、所期のミッションを果たせるように頑張る所存ですので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



古谷 毅 代表



## トルコ産業界との個別商談会

去る4月10日午後、UNIDO東京事務所とトルコ海外経済委員会（DEIK）は、東京にて「トルコ産業界との個別商談会」を開催しました。商談会にはトルコ側から、自動車、飲料、金融、小売、エネルギーなどのグループ企業を有するAnadoluグループや、建設大手のYapi Merkeziを始め、食品、

繊維、リサイクル関連の企業や主催団体のDEIK、イズミール及びアンカラの開発公社、トルコ中小企業公社など、11企業・団体が参加しました。

一方の日本側からは食品、建設、電気・電子、化学、金属、商社など様々な業界から37社が商談会に参加しました。近年目覚ましい発展を遂げるト



ルコへの高い関心を受け、トルコ・日本両国の参加者の間で活発な情報・意見交換が持たれ、本商談会での個別面談数は、のべ80件に上りました。

UNIDO東京事務所では今後もDEIK、在京トルコ大使館、関連団体等と連携し、トルコとの経済協力やビジネス交流を推進していく予定です。



## 「スマートグリッド展2012」に参加

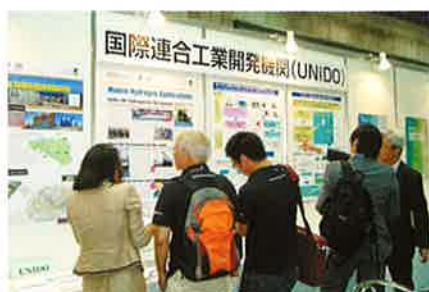


UNIDO東京事務所は、UNIDO国際水素エネルギー技術センター（UNIDO-ICHET）、国連大学メディアセンターの協力を得て、去る5月30日から6月1日、東京ビッグサイトにて開催された「スマートグリッド展2012」（日刊工業新聞社主催）にUNIDOブースを出展しました。

ブースでは、UNIDOが取り組むグリーン産業関連のプロジェクト及びUNIDO-ICHETによる水素技術プロジェクト、UNIDO東京事務所が運営

する技術移転データベースについて紹介しました。また、このデータベース掲載企業のひとつであるVPEC株式会社代表が参加して、同社のスマートグリッド関連プロジェクトについて説明を行なったほか、国連大学職員が「Green Ideas from Japan」事業について紹介しました。

同展示会には3日間の会期中、計44,049名の来場者がありましたが、UNIDOブースには、日本企業関係者を中心に300名を超える方々が来訪、



UNIDOの再生エネルギー関連プロジェクトについての説明やVPEC社の技術についての説明に耳を傾けました。



UNIDOの再生可能エネルギー関連プロジェクトについての詳細は、下記のサイトをご参照ください。

<http://www.unido.org/index.php?id=1000753>

<http://www.unido-ichet.org>  
(水素エネルギー)

from the world  
世界の国から

# セルビア共和国

Republic of Serbia



## 犬丸マテヤ・ミレンコヴィッチ氏

セルビア投資輸出促進庁 (SIEPA)  
輸出促進アドバイザー

Mr. Mateja Milenkovic Inumaru  
Export Promotion Advisor  
Serbia Investment and Export Promotion  
Agency (SIEPA)  
(Belgrade, Serbia)

首都 ベオグラード  
面積 約7.7万平方キロメートル  
(北海道とほぼ同じ)  
人口 約732万人(2009年 世銀)  
政体 共和制  
元首 トミスラフ・ニコリッチ大統領  
言語 セルビア語  
通貨 デナール



## 10億人の巨大市場へのアクセス

### 政治的・経済的に安定した国

セルビアは南東ヨーロッパ、バルカン半島中西部に位置する活力あふれる国です。今回は、日本企業によるセルビアへの投資を促進するために来日しました。2週間の滞在中、東京でセミナーを開催したほか、名古屋や大阪でも多くの企業関係者と面談することができ、かなりの手応えを感じました。

セルビアは2001年に本格的に民主制に移行し、2006年にモンテネグロの分離独立があったものの、政治的・経済的に安定しており、今年3月にはEU加盟候補国となりました。ここ数年各国からの注目が集まり、2011年には南東ヨーロッパ最大の22億ユーロが投資されました。

### さまざまな投資メリット

セルビアに投資するメリットはたくさんあります。まず、労働力のコスト競争力が高いことです。平均賃金は近隣のハンガリーやクロアチアと比べて3分の2から2分の1と安く、しかも

優秀です。セルビアは旧ユーゴスラビアの中でも最も工業が盛んで、専門的な知識を持った人材が豊富です。英語力も中・南東ヨーロッパではトップレベルで、管理職から一般労働者まで英語でのコミュニケーションが可能です。

自由貿易市場へのアクセスが豊富なことも魅力です。EU諸国を含むヨーロッパの殆どの国だけでなく、経済成長著しいトルコやカザフスタン、ベラルーシ、さらには市場規模の大きいロシアとも自由貿易協定を結んでいます。これらの国との貿易には、ほとんどの品目で輸出にも輸入にも関税がかかりません。また、アメリカとの貿易には一般特惠関税制度が適用され、多くの物品に関税なしで輸出することができます。

セルビアの人口は732万人ほどですが、自由貿易の観点では約10億人の巨大市場を持っていることになります。自動車関連、農業・食品加工、IT、電気・電子、繊維などさまざまな分野でビジネスチャンスがあります。

投資優遇政策も充実しています。投資地域により50万または100万ユーロ以上を投資し、50人以上を雇用、操業開始から最低3年間はセルビアに残るという条件を満たせば、1人の雇用につき4千から1万ユーロの特別奨励金が政府から支給されます。また、法人税、所得税、付加価値税が中・南東ヨ

ーロッパ諸国の中で最も低いことも投資をする上で有利と言えます。

### 活気あふれる親日の国

セルビアは治安が非常によく、女性が夜1人で外出してもまず問題がありません。日本からのODAによるバス、医療機器、水道設備などの援助に対す



聖サバ大聖堂 (写真提供: Serbian Walker)

る感謝の気持ちが強く、親日感情が高い国です。東日本大震災の発生直後にはセルビア各地で募金活動が行われ、赤十字を通じての寄付としてはヨーロッパで1番、世界でも5番目の額となりました。

セルビア人は人生を楽しむ明るい民族で、食や音楽などをテーマにした祭りやイベントが数多くあります。肉も野菜も豊富でおいしく、セルビア料理は日本人の口に合うと思います。ぜひ1度セルビアに来ていただき、投資を検討していただきたいと考えています。



ベオグラード・モーターショー (写真提供: Serbian Walker)



# 「リオ+20」 ジャパンパビリオンに出展

UNIDOは、去る6月13日から24日まで、「リオ+20」ジャパンパビリオンにブースを出展、UNIDOの取り組みや日本企業が有する優れた環境技術を展示・紹介しました。

## ■ 「リオ+20」とは

去る6月20日から22日まで、ブラジル・リオデジャネイロにて、「国連持続可能な開発会議（UNCSD）」が開催されました。この会議は、1992年に同地で開催された、「国連環境開発会議（UNCED）」、2002年のヨハネスブルグでの「持続可能な開発に関する世界首脳会議（WSSD）」に続くもので、1992年の会議から20年後という意味で「リオ+20」と呼ばれています。

「リオ+20」には、国連加盟188カ国及びEUなどから97名の首脳及び多数の閣僚級も参加して、①「持続可能な開発及び貧困根絶の文脈におけるグリーン経済」、②「持続可能な開発のための制度的枠組み」をテーマとして、今後10年の経済、社会、環境のあり方が話し合われました。



UNIDOブースの様子

同パビリオンには、外務省、環境省、経済産業省、農水省を始めとする国や東京都、横浜市、滋賀県、北九州市などの地方自治体、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）、(独)国際協力機構（JICA）、さらには、三菱商事／三菱重工、三井物産、パナソニック、味の素、IHIなどの民間企業を含む23団体・企業が出展し、官民一体となって東日本大震災からの復興と環境配慮型の経済・社会に向けた日本の取り組みや日本が保有する省エネルギー・省資源技術を世界に発信しました。

## ■ 日本企業のグリーン技術を紹介

ジャパンパビリオンのUNIDOブースには、VPEC／大阪ガス（クラスター拡張型電力ネットワーク）、アサダ（フロン回収・再生装置）、千代田化工建設（化学物質管理）、トーテツ（雨水貯留・資源化）、アクアテック（ジャリッコによる汚水浄化）、キンセイ産業（乾溜ガス化発電）の6社が参加、個々の優れた環境技術を来場者にアピールしました。

6社の代表は、展示ブースでの技術紹介に加えて、6月21日にはジャパンパビリオンのイベント会場にて、固有の技術についてプレゼ

ンテーションを行ないました。このイベントには50名が参加、各社の説明に耳を傾けるとともに、その後のネットワーキングセッションで交流を深めました。

## ■ UNIDOブースでの商談会

ジャパンパビリオンには、13日間の会期中1万8千人超の来場者がありました。このうち、UNIDOブースには3千人を超える来客が訪れ、グリーン産業に

おけるUNIDOの取り組みや参加企業の環境技術について説明を受けました。6社のUNIDOブース参加企業が個別に行なった商談件数は、全体で342件に上ります。

来場者はブラジルの中央・地方政府関係者、民間企業やNGO、学生、一般市民に加え、「リオ+20」に参加している各国政府関係者などで、ミャンマーのサイ・マウク・カーン副大統領、川口順子元外務大臣、ブラジル・ロライマ州知事、UAE外務省エネルギー・気候変動局長、NEDO理事長を始めとする数多くのVIPも来訪し、前述の6企業から熱心に技術の説明を受けていました。

UNIDOでは今後もさまざまな活動を通して、日本企業の海外ビジネスを支援していきます。



イベント会場での技術紹介

## ■ ジャパンパビリオンへの出展

「リオ+20」開催に合わせて、6月13日から24日まで、「リオ+20」メイン会場に隣接するアスリートパークにて、「グリーンイノベーションと世界の絆」をテーマとして設置されたジャパンパビリオンに、UNIDOは日本能力協会の協力を得て、ブース出展しました。



UNIDOブースに参加した企業代表者